

# くらがね通信

No.90 (夏号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

2023年7月7日発行

<http://iidalaw.net/norikura.html>

## 自然談話室「クマタカの保護と生物多様性」

6月13日、直井清正さんの自然談話室「クマタカの保護と生物多様性」がおこなわれました（参加者数31名）。

以下談話内容の要旨です。

今年2月3日に神岡在住の野鳥の会の会員の方から直井さんに、衝撃的な写真とともに連絡が入りました。内容は、「クマタカが道路の落石防止ネットの裏側に入ってしまった自力では出られないようだ」というものでした。翌日、直井さん始め多くの方が現場に駆けつけクマタカは無事保護されました。その後約1ヶ月の間直井さんご夫妻の献身的な世話でクマタカは体力を回復し、無事に野生復帰を果たす事ができました。

その時の環境省や岐阜県の対応は矛盾に満ちたものであったこと、かつての傷病鳥保護事業や、カスミ網による野鳥密猟の反対運動での行政の対応、あるいは自然環境対策無視の河川工事の実態等々を、「生物多様性」をキーワードに話されました。

最後に「私個人にできること」として、カワセミの営巣場所を何とか復活させたいとの思いから自分の畑で行っている工事、あるいは原山公園での取り組みなどを紹介されました。

参加された皆さんは、真摯にまた訥々と話される直井さんの言葉に聞き入っていました。



発見時のクマタカ



救出の様子



採掘した金鉱石をひいた白

「荘川で自然観察会やるから来ない？」と声をかけていただき、地元を知る絶好の機会と思い参加しました。

午前中はまちづくり協議会の方に六厩集落を案内してもらいながら、廃校の中を見学したり、昔栄えた金山の話の話を聞きました。地元民とはいえ、結婚を機に名古屋から荘川へ来た自分にとっては知らないことばかりで、ここで採掘された金が名古屋城の金の鯨に使われたと聞き、自分が生まれ育った地と荘川との意外なつながりを知ることになりました。

歴史と文化を学んだ後は、湿地へ移動し植物観察です。こんな所に湿原があることさえ知らず、最近ランに興味に向いている自分にとっては、カキランの葉と1輪のトキソウに会えて大満足でした。シラヒゲソウの花の時期は圧巻と聞き、今から楽しみにしています。

昼食をはさんで午後は、産業廃棄物処理施設の計画地を、対策委員会の方と六厩区長さんの案内で行きました。建設反対の署名はしましたし、源流に作る問題点を聞いてはいましたが、実際に現場を見て事の重大さを改めて感じました。



トキソウ

保水力低下による洪水の危険、盛土が誘発する土砂崩れの可能性、生息している希少生物の未来、建設計画が途中で頓挫した場合どうなるのか、などなど。建設予定地に端を発する六厩川は荘川を中心部へは流れず、御母衣ダムから世界遺産白川郷を通り富山湾へと注ぎます。六厩地区の町民とその他の地区の町民とでは、恥ずかしいことにこの問題に関して温度差があるように感じます。産廃施設のみならず、原発の核廃棄物、米軍基地・・・このようなものは身近にあって欲しくはないものです。ここに作るな。誰もがそう言いたい。難しい問題ですね。

今回このような企画に参加させていただき、「乗鞍岳と飛騨の自然を考える会」には感謝しています。いろいろな方との出会いがあったことを嬉しく思います。ありがとうございました。

(参加者数 23名)



産廃処分場予定地で説明を聞く

大萱峠（大沼峠）(820m) 一幕府の巡見使が通った峠

平湯峠の上にある輝（てらし）山（2,063m）から長大な尾根が西へ延びている。途中には広い地形の八本原がある。ここの「鷹辻」という所に多くの鷹の巣があり、金森家6代の鷹狩りの場になっていたという。

その八本原の西には十二ヶ岳（1,326m）がある。尾根はここからさらに延び、宮川まで続いている。標高900メートルに近いこの尾根上には、集落と集落を結ぶいくつもの峠があった。

折敷地集落から大萱集落へ越す「恵比寿峠（夷嶺）」、大沼集落から大萱集落への「大萱峠（大沼峠・巡見使街道）」、三之瀬集落から桐山集落へ抜ける「三之瀬峠（峰越え一里の峠）」、柏原集落から千光寺を経て下保集落へ下る「千光寺峠（柏原峠）」、柏原集落から三川集落へ越す「三川峠」である。このうち旧峠が自動車道路になっているのは「恵比寿峠」のみで、あとは皆長年の役目を終えてほとんどがヤブに埋もれ、今では一顧だにされない。

地図を片手にヤブをわけて歩いてみたが、そこにはまだしっかりした道が残っていた。

江戸期の荒城川沿いには、「荒城郷」として18の村が点在しており、このうち折敷地、大沼、森部、三之瀬、柏原の5カ村を奥荒城と呼んだ。

この奥荒城が丹生川村に編入されたのは、明治8年（1875）3月のことである。荒城川の最上流にある折敷地集落のすぐ下が大沼集落。ここから南の大萱集落へ越す峠があり、大萱峠、大沼峠と呼ばれていた。

『飛州志』に「大萱峠小八賀郷大萱村ニアリ」、『飛騨國中案内』の【大萱村】の項には、「大萱

村より吉城郷大沼村え行道有之、此間も峠道にて道程一里あり」とある。

〈探索記・聞き取り〉

平成24年10月12日

国土地理院の地形図にまだ載っている点線（歩道）が気になり、入って見た。

峠のことを聞こうとたまたま寄った家が大沼家。江戸期にはこのあたりを大沼村といい、名主をつとめていたのがこの大沼家だった。周知のとおり、江戸期の大原騒動と関わりの深かった家である。

安永騒動では久左衛門が検地に反対した首謀者とされ、江戸の獄中で病没、獄門。天明騒動のときは、養子の忠治郎が中心的な役割を果たした。寛政元年（1789）5月、天明騒動の真相を探るべく北陸から飛騨に入った幕府の巡見使一行は、高原郷在家村から駒鼻峠、そしてこの峠（恵比寿峠説もある）を越えて大萱村の横山家に滞在。ここで忠治郎などから大原郡代不正の訴えを聞き、訴状を受け取っている。忠次郎は、後に騒動の全容を『夢物語』として全10巻107項にまとめた。父子とも農民のためにこの峠を頻りに往来して奔走し、そして久左衛門はついに戻る事がなかった。

当日大沼家にはちょうど85歳（当時）という翁がおられ、峠について尋ねると、以下の話を聞くことができた。

「峠道は家の前からまっすぐ田の中を歩き、荒城川の吊り橋を渡った所が取りつきやった」

「昭和45年頃、この峠の東の恵比寿峠に自動車道がつくと歩く人がおらんようになって吊り橋が落とされ、現在橋台だけが残っとる」(写真1)

「それまでは荷馬車も通った広い道で、郵便配達さんが峠から自転車で下ってくるのがブレーキの音で分かったもんや。近年通る人などおらんので、だいぶ笹に埋まっとるやろな」



写真1



また当家のご長男（当時63歳）からは、子供の頃に剣道の防具を担いでよくこの峠を往復したという話を聞いた。

さっそく峠道に入る。取り付きまでは、下流の橋を渡って左岸についている農道を歩き、旧吊り橋の対岸まで大きく迂回する。

いきなり笹が密生していたので分けて進む。その先の植林帯の中は笹がほとんどなく、昔のままの広い道が伸びていた。（写真2・3）日当たりのいい場所に出るとまた一面の笹原になり、こぐのに苦労する。

途中から、稲刈りがはじまった大沼の集落が俯瞰できた。このあたりにあった地蔵様は、麓の県道端に降ろされて行き交う車の安全を見守っておられる。（写真4）

道は谷沿いになり、さらに笹こぎがつづく。やがて平坦な地形になって峠とおぼしき場所に出たが、そこには牛舎の廃屋があった。（写真5）このあたりは平坦な地形が広がっているので一



面農地に開墾され、トマト栽培などのビニールハウスが並んでいる。

下りの峠道が見つからず、縦横につけられた畑の中の道を迷いながら下部の滑谷集落へ。家のお前におられた、これも地名とおなじ姓の滑谷さんに旧道を尋ねて判明。大萱までの略図を書いてもらって、往路を引き返した。

やはり先ほどの廃屋のあたりが峠だった。これを横切ると笹原の斜面に下まで道のかたちが見え、笹をこいで下る。

先の大沼翁の話では、昔ご先祖が峠に安置した2体の地蔵様は、峠の西に自動車道が開通したときその車道の辻に移したが、まもなく2体とも盗難に遭ってしまったとのこと。

昭和30年（1955）からはじまったいわゆる高度経済成長期、山間地にも道路がつけられて便利にはなったが、日本中が開発ブームに沸き、



山の中に少しでも平坦地があるとリゾート地などに造成された。そして人々が車で忙しく走り回るようになり、古い物が壊されて棄てられ、日本中の農村の美しい景観が消えてしまった。各地の峠などの石仏が盗難にあったのもちょうどこの頃だ。

再び滑谷集落へ下る。滑谷集落分岐の地藏様は幸い健在であった。(写真6)

道を教えてくれた滑谷さん(当時65歳)は、子供の頃峠を越えて荒城川まで泳ぎにいったことを懐かしそうに話してくれた

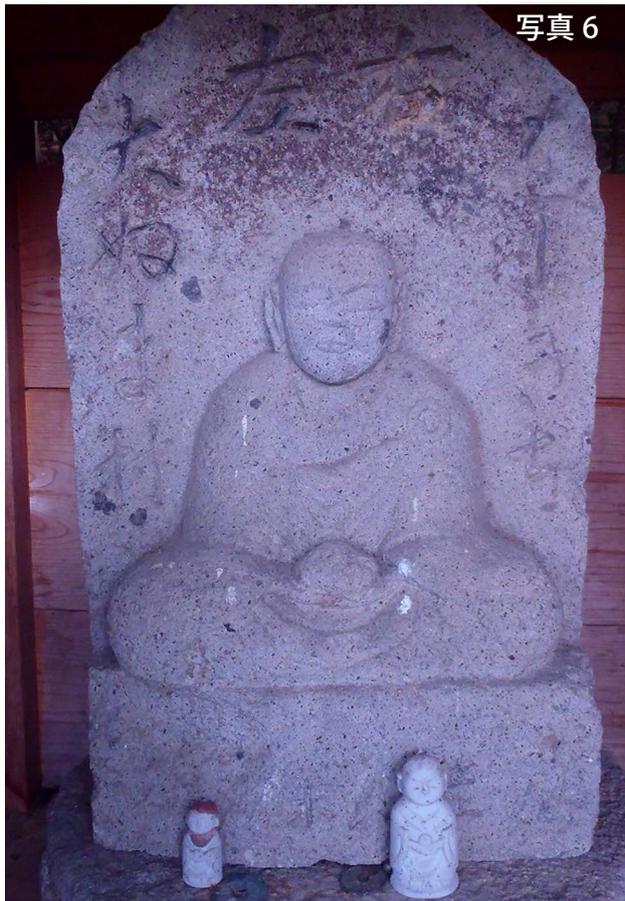


写真6

## チャマダラセセリの保護区へ

松崎まみ

4月下旬、高根町日和田でチャマダラセセリが出始めたとの情報をいただく。5月の連休に孫たちを連れて行きたいがその頃まで大丈夫か尋ねると「5月は個体数は少ないが、生き残りがいるかも」という返事だった。

5月4日、早朝に行っても飛ばないだろうと11時頃日和田に着く。カメラマンが3人、「今日は暖かいから早くから飛んでいる」と言っていた。

保護区一带はミツバツチグリが花盛り。廻りの草地にもミツバツチグリが広がり、道路脇からもチャマダラセセリが飛び出し、アカツメクサやタンポポにも吸蜜に来ていた。お弁当を食べていたら、カメラマンが「産卵したよ」と教えてくれ、ミツバツチグリの葉裏の小さな卵を撮影できた。

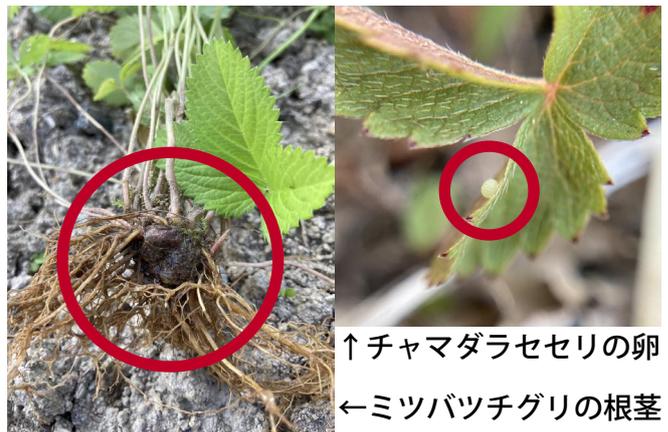
6月21日、三川の畑で直井さんが、根ごと掘り起こしたミツバツチグリを見せてくれた。根茎があることで他のキジムシロ属と区別することができるのだが、花は見ていても根茎までは掘ったことがなかったので、直井さんに感謝感謝。

山溪ハンディ図鑑「野に咲く花」で調べたらツチグリの名前の由来とミツバツチグリとの違いがわかった。

- ・「西日本に多いツチグリの根茎は紡錘状で、焼くと栗のような味がし、生でも食べられる。ツチグリの名はこの根茎からつけられたもの」
- ・「ミツバツチグリは、ツチグリに似ていて葉が3小葉であることによる。根茎は堅くて食べられない」



原色牧野植物大圖鑑



↑チャマダラセセリの卵  
←ミツバツチグリの根茎

# 行事予定予定

## ★水生昆虫調査

7月23日(日) 午前9時～(午前中で終了、小雨決行・増水時は中止)

集合場所：ウッドフォーラム飛騨駐車場(清見町)

服装等：濡れても良い服装、水の中を歩ける靴かサンダル、タオル、帽子

今年も水生昆虫調査を行います。川の中に入る事さえ殆どしなくなった私たち、身近な存在であるはずの川が今どんな状態か？水生昆虫を探しながら考えるきっかけにしたいと思っています。

## ★アサギマダラマーキング会(チャオ御嶽スキー場跡地)

9月3日(日)(悪天の場合は10日)

集合時間：午前9時

集合場所：道の駅ひだ朝日村(集合後移動)

持ち物：お弁当、飲み物、雨具、メモ用紙、油性フェルトペン(黒・細書き)、捕虫網(貸し出しも有ります)

服装等：軽快な服と靴、日除け対策(帽子等)

## ★秋の里山こみちハイク・石仏探訪(上野から三仏寺城跡を目指します)

10月1日(日)(小雨決行)

集合時間：午前9時30分

集合場所：上野平公民館駐車場(土のグランド部分には駐車しないこと)

持ち物：お弁当、飲み物、雨具、メモ用紙、筆記具、その他

服装等：軽快な服と靴、帽子

## ※行事の問い合わせ先：

松崎(090-4214-5208、[ioauregihserimus@hidatakayama.ne.jp](mailto:ioauregihserimus@hidatakayama.ne.jp))

■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円

あなたの知人、友人に入会をおすすめください

・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第90号(夏号) 2023年7月7日発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町4-218-3 飯田 洋

TEL: 0577-32-7206・FAX: 0577-32-7207

下記URLのページからくらがね通信のバックナンバーが閲覧できます。

★ <http://idalaw.net/kuragane.html>

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者: 松崎 茂

E-mail: [ioauregihserimus@hidatakayama.ne.jp](mailto:ioauregihserimus@hidatakayama.ne.jp) TEL: 0577-34-4703

表紙写真提供: 小池 潜 印刷: 山都印刷